

## 2021.3.20 MIYAZAKI SDGs ACTION プレゼンテーション 発表内容

- 1 杉本商店×宮崎大学×五ヶ瀬中等教育学校  
テーマ「居たい！ 来たい！ 宮崎！」
- 2 TNA ソリューションデザイン×宮崎大学×宮崎学園高校 A  
テーマ「日本の現状を知り、ジェンダー平等の実現に向けて……」
- 3 宮崎文化本舗×南九州大学×小林高校  
テーマ「フレンド・シティ計画」
- 4 川上木材×宮崎大学×都城西高校  
テーマ「木育×デザインシンキングで心地よい場を生み出す」
- 5 ホンダロック×宮崎大学×宮崎日本大学高校  
テーマ「ゆたかな宮崎」
- 6 グローバルクリーン×宮崎大学×宮崎西高校  
テーマ「環境=社会環境+自然環境」
- 7 東京海上日動火災保険×宮崎大学×日南高校  
テーマ「海のキレイな宮崎」
- 8 MFE HIMUKA×宮崎大学×高鍋高校  
テーマ「レッツ・クリエイト・サステナブルミヤザキ」
- 9 パームス企画×宮崎大学×宮崎農業高校  
テーマ「宮崎を基盤にひろがる農業、つながる食育」
- 10 コカ・コーラボトラーズジャパン×宮崎大学×飯野高校  
テーマ「地域と世代の垣根を越えた未来の宮崎を目指す」
- 11 旭建設×宮崎大学×延岡高校 B  
テーマ「住み続けたい街宮崎をじぶんたちでつくろう!!」
- 12 興電舎×宮崎大学×延岡高校 A  
テーマ「【いつまでも】を【あたりまえ】に！ ～ライトセーバーの覚醒～」
- 13 三桜電気工業×宮崎大学×宮崎公立大学×宮崎第一高校  
テーマ「宮崎の自然を通してSDGsを学ぼう」
- 14 宮崎トヨタグループ×宮崎大学×宮崎学園高校 B  
テーマ「住みよい宮崎のためのSDGs」
- 15 マルイチ×宮崎大学×日向高校  
テーマ「【食】の大切さを宮崎から全国へ」

<https://miyazaki-sdgs-action.net>



3月20日、MRT miccで開催された、MIYAZAKI SDGs ACTION プレゼンテーションでの記念撮影の様子(アクションの「A」のポーズ)。新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインでの同時配信も実施。



**フェーズ0** ~地域の課題を企業と一緒に探究しよう  
2020.12.17~2021.3.20

最近、よく耳にするようになった「SDGs」というキーワード。この世界的な取り組みに対し、将来の担い手である宮崎の高校生・大学生が、地元の企業と協働して持続可能な経済・社会のあり方を考える——それが昨年からはスタートした「MIYAZAKI SDGs 10年プロジェクト」です。フェーズ0と銘打っての初めてのアクションを、今回誌面でご紹介！



# MIYAZAKI SDGs ACTION

宮崎の学生たちが、持続可能な未来への取り組みについて考えてみた！



誰も置き去りにしない未来を考える

最初はたぶん、どの高校生もぼかんとした顔をしていました。SDGs。大切なことだとわかっているけれど、分野も広く、壮大で、まるでつかみどころがないように思えて。

しかもこのコロナ禍で、12月の初回オンラインイベントは想定外のオンライン開催。画面越しの相手を同じチームだと言われても、実感もわかかったに違いありません。

今回は、県内13の高校と4つの大学、さらに民間企業15社が参加しました。総勢150名、各チームに企業1社が加わったことで15チームにわかれてのスタート。それが「地域の課題を企業と一緒に探究しよう」をテーマに掲げた初回のフェーズ0です。

自動車メーカーあり、木材加工販売会社あり、スーパーマーケットあり……ふつつなら出会うことのない高校生・大学生・企業の三者が、宮崎のありたい未来について考え始めたのは2020年の12月のことでした。

自分たちが変化の主体になるために

年が明けて2021年。緊急事態宣言下で学校の活動が制限される中でも、オンラインミーティングで参加者たちは対話を深めていきました。

自然環境・農業・林業。まちづくり。最初は戸惑っていた各チームが、議論の中で少しずつそれぞれのテーマを見出し、進んでいきます。もちろん、他チームの進行具合はわからない状況です。だからこそ、自分たちのテーマについて深く考えていくことになりました。

本来は初回のオンラインイベントで行うはずだったSDGsカードゲームも各チーム内で開催されました。ゲームを通して世界の関わりとゆく末を考え、さらにSDGsの意義について理解を深めた参加者たち。そこからは加速度的に取り組みテーマが深掘りされていきました。

その成果が発表されたのが3月のプレゼンテーションです。初めて一堂に会した15チームが、未来を実現するためのアクションをプレゼンしました。もちろん優劣はつきません。各チームが求めた理想の未来に、上も下もあろうはずがないからです。

今回の取り組みはきっかけです。ありたい未来を自分たちで実現するための参加したひとりひとりが、広がる波紋の小さな始まりになることを期待せずにいられません。